

兵庫・明石城跡 坤櫓

1 所在地 兵庫県明石市明石公園

2 調査期間 一九九六年(平8)八月~九月

3 発掘機関 兵庫県教育委員会

4 調査担当者 渡辺 昇・大西貴夫

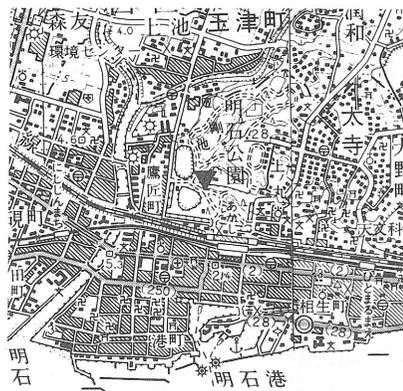
5 遺跡の種類 城跡

6 遺跡の年代 江戸時代末~明治時代初め

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

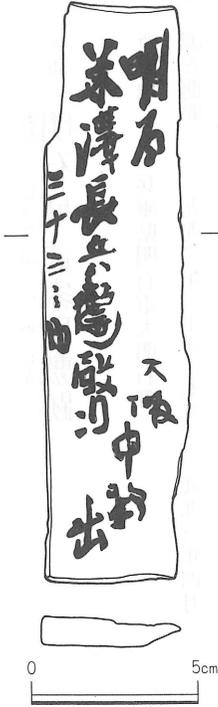
明石城は元和四年(一六一八)に小笠原忠政(忠真)によって築城され、一八代二四九年間明石藩主の居城となった城である。本丸の南

西部に位置する坤櫓もその際に築かれたと伝えられている。



(明石・須磨)

阪神淡路大震災によって明石城跡の石垣も大きな被害を受け、石垣補修工事がほぼ城内全域で行なわれることとなった。本丸石垣も同様に、櫓を曳屋工事によ



(1) 「明石 大坂 中野
米澤長兵衛殿江 出
三十三之内」

175×(43)×8 081

8 木簡の积文・内容

って移動したのち、石垣工事をする事となった。櫓の基礎部分についても、元の位置に復原することにはなっているが、石垣解体に伴って削らざるを得ないことから、発掘調査を実施した。坤櫓は五×六間の三層の櫓である。南北に長く東面に入口を設けている。築城時に伏見城の廢材を利用したと伝えられている。明治時代に解体修理を行っており、その際に補強の石材や束石が入れられていた。当初は東西四石、南北五石の主柱通りのみ礎石が計一四石配置されており、礎石の多くには墨書で記号が記されていた。古い時期の裏込めは角礫や人頭大の石材が使われている。明治期に置かれた石材を除去し、本来の面を確認する段階で木札（木簡）が出土した。陶磁器・将棋の駒（王将）・鉄釘が相伴している。

(2) 「王将」

32×27×9.5 061

米澤家は明石城周辺の大地主であり、米澤長衛（木簡では「長兵衛」）は米穀商を営み第五十六国立銀行を設立した名士である。

（渡辺 昇）